

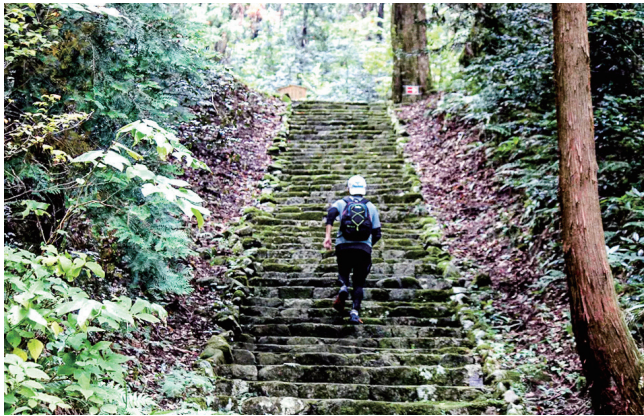


全国曹洞宗青年会の 活動紹介 三十八

今回は「峨山道トレイルラン」を取材した体験をご紹介します。ただ素材は、二〇一八年二月発行の広報誌『SOUSEI』の特集「禅とランニング―走道―」の取材のため、第三回大会に参加いたしました。

前日、永光寺さまに拝登させていただき、初めて五老峯に参拝いたしました。その凜とした雰囲気に心が洗われる思いがいたしました。

翌日、「峨山道トレイルラン」のスタートは午前五時、羽咋市役所の広場からでした。まだ辺りは暗い中で出発し、しばらく走ると永光寺さまに着き



「峨山道トレイルラン」の取材体験について

副会長 田ノ口太悟たのくちたいご

ます。伽藍の廻廊を走り抜けて五老峯を横切り、峨山道へと入りました。峨山道は小山を登っては下りを繰り返すアップダウンの多い道のです。ときどき見晴らしの良い場所に出ると、能登半島の山々を見渡すことができます。その景色を見て、同じ場所を峨山韶碩禪師が往来したのかと思うととても感慨深い思いがいたしました。

途中、雨が強くなり、足場が悪くなるにつれて走るペースが落ちてまいりました。足を取られて転ぶ参加者も多くなりましたが、その度に参加者同士で声をかけあい、無事を確認するなどふれ合いは貴重な体験でした。

後日、実際に完走した方々にコメン



スタートを待つ参加者たち

トをいただく」と、「『禅』と『走る』という行為には関係がある」とお答えになる方が多かったです。特に曹洞宗僧侶の方には坐禅と引き合わせてお考え

の方もおられました。「走ることで坐禅を実践し仏の教えに親しむ、走る行為と一体になりながら感謝と報恩の心境に到る。走ることから生き方を学ぶ『走道』の境涯に至る扉は開かれている」と記事では結びました。

当日は台風が近づいて大会開催が危ぶまれる状況でありましたが、地元の方々のご協力をいただいで開催に漕ぎ着けたとのことでした。おかげさまで峨山禅師が歩んだ道のりを辿るといって得難い体験をさせていただきました。禅師からいただいたご縁によって、参加者や地元の方々とお会いする機会を得たのだと思うと、禅師への感謝と尊崇の念が湧いてまいります。

「峨山道トレイルラン」は今年、十月十五日に第七回大会が予定されています。無事に

「峨山道トレイルラン」は今年、十月十五日に第七回大会が予定されています。無事に

「峨山道トレイルラン」は今年、十月十五日に第七回大会が予定されています。無事に



● 執筆者プロフィール
副会長 田ノ口太悟

福岡県曹洞宗青年会所属
第二十三期広報委員長

特集「禅とランニング」掲載の全曹青ホームページ『般若』へは、上記QRコードを読み取りください

大会が開催、円成されますようお願いしております。

この特集記事は全曹青ホームページ『般若』で公開しております。「『禅』と『走る』という行為の間に繋がりはあるか」をテーマに、駒澤大学陸上競技部監督の大八木弘明氏にもお話を伺っております。ぜひともご高覧ください。